

■教養教育科目

科目名	授業の目的・到達目標
倫理学	<p><授業の目的> 平和を友愛に貢献するため、現代の倫理的問題（社会問題）に対して、哲学的アプローチを試みる。</p> <p><到達目標> 現代の倫理的問題の背景としてある思想・価値観を知り、自分なりの判断基準を説明できるようにする。</p>
国語・国文学	<p><授業の目的> 我が国の伝統と文化に対する理解を深め、人間・社会・自然などについて考察し、自らの考えをよりよく表現できる力を『竹取物語』を精読する中で、養おうとするものである。</p> <p><到達目標> 文脈に即して、書かれている内容を理解することを基礎として、自らの思索や調査を表現する力をつけるとともに、他者との主体的で対話的な学びを深めるとともに、言語を駆使する訓練を通して伝え合う力を向上させることを到達目標とする。</p>
日本の伝統美学Ⅱ	<p><授業の目的> 多様な人々と協働し学び続ける力を身につけるため、文字の均整、均衡を理解し、文字を正しく美しく、体裁をよくまとめて書く。特に社会に出て文字を書く場面に出会った時、困らない様に学習する。</p> <p><到達目標> 自分の名前、住所などが楷書、行書で正確に書けるようになる。 日常的によく使う文字や、葉書、履歴書を美しく書けるようになる。</p>
国際文化比較	<p><授業の目的> 日本人同士でさえ、お互いを理解することは難しい。それが生まれ育った場所や環境、経験、習慣、文化が全く異なる相手となると理解することは容易なことではない。そこで、かつて世界で活躍した先人（高知出身者を含む）の生き方などを参考にグローバル化が進む現代において心得ておかなければならないことを学ぶ。</p> <p><到達目標> 国際人として、グローバル化社会に対応できる。 キーワード：異文化理解・多文化共生・比較文化</p>
化学	<p><授業の目的> 専門的職業人として生体と医療材料を化学的に理解することを目的とする。</p> <p><到達目標> 大学1年レベルの基礎化学の問題を解くことができる。基礎化学生体内で起こる現象と材料の特徴を化学的に説明できる。</p>
生物学	<p><授業の目的> 学生が動植物・微生物の生命現象にかかわる基礎的な事項を十分に理解する。</p> <p><到達目標> 身のまわりの自然現象・生命現象について科学のおよび論理的に考察できる思考を習得できる。</p>
栄養学（食品学含む）	<p><授業の目的> 「栄養」とは、生体が必要な物質を対外から取り入れて生命を維持することをいい、取り入れるべき必須物質を「栄養素」という。したがって、栄養学は人びとが生きていくために摂取しなくてはならない食物や栄養素の働き、エネルギー代謝など栄養学の基礎と食品学について基本的な知識を習得する。</p> <p><到達目標> さまざまな健康課題を持つ対象に応じた看護計画が立案でき、根拠に基づいた看護を実践できる能力を身に付けるために、栄養学の基礎である、三大栄養素のはたらきについて説明できる。栄養に関する評価・判定方法を理解してアセスメントができる。健康の維持・増進と疾病予防における食と栄養の重要性を理解し、知識を習得することにより看護の実践につなげる。</p>
社会学	<p><授業の目的> 曖昧で掴みどころのない「社会」を把握するための道具となる社会学的な概念を学び、身の回りにある社会事象を社会学的視点から理解できるようになる。</p> <p><到達目標> 社会学的概念を駆使しながら、身の回りの社会事象を批判的かつ客観的に把握・理解し、説明することができる。</p>

日本国憲法	<p><授業の目的> 学生が、我が国の基本法である日本国憲法に対する理解を深めることの手助けをするのがこの授業の目的である。</p> <p><到達目標> 学生が日本国憲法に対する興味を持つようになる。</p>
法学	<p><授業の目的> 人命を尊重する意識を高めるため、学生が法の主要分野に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。</p> <p><到達目標> 学生が法の主要分野について学ぶことにより、「契約自由の原則」や「罪刑法定主義」などの、現在の我々の生活を取り巻く法の基本原則を理解することができる。</p>
英会話	<p><授業の目的> Students will become more internationalized by acquiring the knowledge & mastering basic language skills (vocabulary, English expressions & grammar) to express themselves & communicate in English to hospital patients.</p> <p><到達目標> Students will study basic English vocabulary & expressions about everyday topics by reading, & speaking (role-playing).</p>
生涯スポーツ実技	<p><授業の目的> 初心者でも手軽に競技できるフライングディスク、ソフトバレーボール、フットサル等の実技を通して、「生涯スポーツ」の理念を理解することができる。他者とコミュニケーションを図り、協働して取り組む姿勢や生涯にわたってスポーツに親しみ楽しんでいく積極的態度を身につけることができる。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備、ウォームアップ、練習、試合、クールダウン、用具の片付け、自己評価という一連の授業内容を、自主的に、安全に、互いに協力して行うことができる。 ・自己評価ペーパーをもとに自分自身の学習成果と課題について考察することができる。
キャリア形成演習	<p><授業の目的> 自身の将来の生き方等を選択することができる能力を養う。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①キャリア形成基礎力「感じ、広げる力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身に付ける。 ②看護学科での学びを更に深めるために、関連する職業に就いての実社会での活動を知り、大学での学びが社会において持つ意味に気づくことができる。

■基礎分野

科目名	授業の目的・到達目標
保健統計学	<p><授業の目的> 看護の対象となる人々の心身の健康状態や生活状況について理解するために、基本となる情報の取扱方法、統計的分析方法、保健医療看護従事者として知っておくべき集団の健康及び環境に係る統計指標を読み取る技術等を習得できる。</p> <p><到達目標> 1) 基礎的な統計学的手法を理解して活用することができる。 2) 専門書を読み込み、基本的な統計指標の定義と動向を説明することができる。 3) 個人での思考とグループでの討議を通して保健統計に関する理解を深めることができる。 4) 保健統計から見える健康課題について考察し文章で表現できる。</p>
情報科学 I	<p><授業の目的> 情報セキュリティについての基本的な理解、情報モラルの育成とともに、看護実践能力の育成の基礎となる基本的な情報活用力を身につける。統計や検定について、基本的な処理ができるようになる。</p> <p><到達目標> 情報セキュリティについて基本的な理解ができる。情報モラルに従って、情報モラルのプロセスにおいて必要となる、情報を集め、分析し、整理・蓄積し、伝える、基本的な力を持ち、情報を安全かつ適切に運用することができる。統計や検定について、基本的な処理ができる。</p>
情報科学 II	<p><授業の目的> 看護における情報リテラシーとしての統計や検定に関する基礎的な知識と処理ができるようになる。看護師の現場における情報の記録や考え方を理解し、資料としてまとめることができ、発表することができるようになる。</p> <p><到達目標> 統計や検定に関する基礎的な知識と処理ができる。看護に関する情報を検索・調査し、電子的な資料としてまとめることができる。電子カルテと病院における情報システムの概要が説明できる。個人情報漏洩等の事故を起こさないための知識を身につける。</p>
医療英語	<p><授業の目的> Students will become more internationalized by acquiring the knowledge & mastering the English language skills (vocabulary, medical expressions & grammar) to express themselves & communicate in English to hospital patients.</p> <p><到達目標> Students will study basic medical English vocabulary & expressions for nurses related to pediatrics, psychiatry, geriatrics, maternity, & cancer screening by reading & speaking (role-playing).</p>
生活と環境	<p><授業の目的> 環境と健康・生活との関わりを理解するために、看護の視点でベッドサイドの環境を捉えることができる。</p> <p><到達目標> 1. 環境の概念及び療養生活環境について説明することができる。 2. 環境、健康、生活を看護の視点で捉え、看護の役割を説明することができる。</p>
心理学（発達心理学含む）	<p><授業の目的> 広い視野から人命を尊重し、その責任感と倫理観に基づいて、キャリア形成基礎力を発揮する専門的職業人として活躍するため、人間形成や対人関係のあり方、さらには社会現象の理解につなげ、社会適応を促進するための知識と測定方法を理解し活用することができるようになる。</p> <p><到達目標> 社会の状況を積極的に受け入れ、倫理的な観点から考えて行動するため、心理学に関する理論を自らの体験や日常生活で見られる事例を踏まえながら説明するとともに、人間の各発達段階における心理的および身体的発達について、段階間の変化を踏まえて説明することができる。</p>

人間関係論（コミュニケーション含む）	<p><授業の目的> 関係性の構築のために必要な知識と技術を学び、対人援助者としての資質を養うことを目的とする。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係性構築のためのコミュニケーション技法を習得し、実践できる。 ・自己の気づきを深めることの意義を理解し、自己の振り返りの方法としてプロセスレコードを記載することができる。 ・患者－看護師関係の特徴を理解し説明できる。 ・健康相談活動の理論を学び、カウンセリング技法として実践できる。
健康・スポーツ科学	<p><授業の目的> 生涯スポーツ社会を生きていくうえで、基本的な運動を行うことによって健康増進を図るための知識・技能・態度を習得できるようになる。実技・演習においては、他者と協働して取り組む姿勢や生涯にわたってスポーツに親しみ楽しんでいく積極的な態度を身につけることができるようになる。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げた問題に関する基礎知識を身につけ、それらを具体的に説明することができる。 ・3種類の運動（ストレッチング運動、有酸素運動、レジスタンス運動）を正しく実践できる。 ・自分の生活スタイルと健康状態を顧み、「運動」による健康増進計画を立案し、試行した結果をレポートにまとめて報告することができる。
平和と友愛論	<p><授業の目的> 職業人として、知識やキャリア形成基礎力、実践力、学び続ける力を身に付けるため、国際社会や日本の「平和と友愛」に関する問題及び人権の尊厳について認識し、深く洞察できるようになる。</p> <p><到達目標></p> <p>自己の感性を磨き、人権の尊厳や社会問題等に関して、自分の体験や日常生活における具体事例を踏まえて、適切に判断し説明することができる。</p>

■専門基礎分野

科目名	授業の目的・到達目標
人体の構造と機能Ⅰ-1	<p><授業の目的> 看護師として活躍するため、最も基本となる人体の構造を各系統（部位）別に把握する。さらに、これらの知識をもとに総合的に人体構造を理解し、疾病と関連付けができるようにする。</p> <p><到達目標> 人体の全体構造を把握し、さらにそれを構成する各器官（臓器）がどのような構造であるか具体的に述べるができる。体について各系統別に臓器の名称を記憶し、それらの大まかな構造をスケッチで表現できる、また臓器の構造の名称を記述できる。</p>
人体の構造と機能Ⅰ-2	<p><授業の目的> 看護師として活躍するため、最も基本となる人体の構造を各系統（部位）別に把握する。さらに、これらの知識をもとに総合的に人体構造を理解し、疾病と関連付けができるようにする。</p> <p><到達目標> 人体の全体構造を把握し、さらに、それらを構成する各器官（臓器）がどのような構造であるか具体的に述べるができる。体について各系統別に臓器の名称を記憶し、それらの大まかな構造をスケッチで表現できる、また臓器の構造の名称を記述できる。</p>
人体の構造と機能Ⅱ	<p><授業の目的> 人体の構造と機能は、臨床医学を学ぶ上で必須の知識である。人がどのようにして生命を維持し活動しているのかを、人体の巧みな仕組みや働き（機能）を理解し簡潔に説明できる。</p> <p><到達目標> 各器官（循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、神経、筋、内分泌）相互の関連性とその調節機能により維持される恒常性について、簡潔に説明ができる。また、生体の主要な臓器が持つ調節機能の不具合により生じる病態について、簡潔に説明できる。</p>
医学概論	<p><授業の目的> 医学の定義、医学の歴史、医の倫理などを学び、今日求められている医療とは、医療のあるべき姿などについて学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学の定義、医学の歴史、医の倫理について説明できる。 ・医学概論を学ぶことによって、専門基礎医学や看護学との関連について理解することができる。
症候と病態	<p><授業の目的> 病気（疾病）が、どのような原因で発生し、どのように人体に影響を与えるのかについて理解する。また、正常な状態と比較して形態や機能にどのような変化が生じるのかについて理解する。</p> <p><到達目標> 臓器の違いをこえて共通にみられる病気について、その原因や特徴が説明できる。さらに、日本人の死因として重要な病気や罹患率の高い病気について、病態が説明できる。</p>
治療学総論	<p><授業の目的> 健康障害が生じた人に対する治療法の手術療法・放射線療法・人工呼吸器・臓器移植・人工透析について根拠を踏まえて理解できる。また、医学的リハビリテーション治療（理学療法、作業療法、言語聴覚療法）の概要を理解できる。</p> <p><到達目標> 手術療法・放射線療法・人工呼吸器・臓器移植・人工透析、医学的リハビリテーション治療（理学療法、作業療法、言語聴覚療法）の概要が説明できる。</p>
治療援助学Ⅰ	<p><授業の目的> 「人体の構造と機能」「症候と病態」「治療学総論」で学んだ知識を活用し、内科的・外科的対応が主となる疾患の治療と健康の回復について理解できる。</p> <p><到達目標> 内科的・外科的対応が主となる疾患の治療と健康の回復について説明できる。</p>
治療援助学Ⅱ	<p><授業の目的> 治療援助学Ⅰで学んだ知識を活用し、主要な疾患に伴う症状への対処について理解する。</p> <p><到達目標> 主要な疾患に伴う症状についての病態を理解し、その症状の緩和のための検査治療・看護を説明することができる。</p>

生化学	<p><授業の目的> 生命現象を化学の理論と方法で解明し理解するために、生体を構成する物質の化学構造や特性とその動態を学び、活用できるようになる。</p> <p><到達目標> 生体構成物質の種類・構造・特性を理解し、生命現象との関連を説明できる。(物質生化学) 生命活動を営むために必要な生体の代謝(同化・異化)過程を説明できる。(動的生化学)</p>
臨床薬理学	<p><授業の目的> 学生が、薬物を投与した際の管理や観察における必要な看護を判断するために、薬物を用いた疾病の治療とその効果や副作用について習得する。</p> <p><到達目標> 1) 代表的な薬物について、その作用機序を生体の構造・機能と関連させて説明できる。 2) 薬物が生体に及ぼす影響を理解し、実際の臨床現場で使用する際の注意点について説明できる。 3) 個々の患者の状態に合わせた薬物療法の基本的な考え方を習得できる。</p>
微生物学・免疫学	<p><授業の目的> 医療現場において感染症への正しい対処法を身につけるために、微生物学では人体に感染を起こすウイルスや細菌などの病原微生物に関する基本的な知識を理解する。免疫学では免疫のシステムと特徴や免疫が関与する疾患について理解する。</p> <p><到達目標> ・病原微生物の種類を把握し感染あるいは感染防御について説明できる。 ・病原体ごとに感染の特徴や様式、病原性、診断から治療について説明できる。 ・自然免疫と獲得性免疫の違い、細胞の働き、抗体の役割を説明できる。 ・アレルギー反応の種類、自己免疫疾患、輸血・移植の検査について説明できる。</p>
臨床検査学総論	<p><授業の目的> 看護師は、患者さんに検査について説明するだけでなく、検査の一部を実施するなど、重要な役割を担っている。講義では、医療における臨床検査の役割と流れ、検査の意義と注意点について理解することを目的とする。</p> <p><到達目標> 臨床検査の役割と流れを理解し、主な検査の意義と注意点について説明できる。さらに、尿検査、血液検査、血液型検査、心電図検査については正しく検査法を理解し、判定ができる。</p>
臨床栄養学	<p><授業の目的> 病態を始めとして栄養素や代謝を理解することで、疾患及び栄養状態に基づいた適切な栄養管理方法を学び、臨床における成分別コントロール、疾患別コントロールの栄養食事療法について理解し、看護師としてNSTなどのチーム医療における役割を解説する。</p> <p><到達目標> 専門的知識を用いてアセスメントを行い、様々な健康課題を持つ対象に応じた看護計画が立案でき、根拠に基づいた看護を実践できる能力を身に付けるために、臨床栄養学の基礎知識を学習し、栄養管理を中心とした治療方法、臨床症状と関連した食事療法について理解し、食事指導の実際について説明できる。</p>
高次脳機能障害論	<p><授業の目的> 高次脳機能障害者を理解するための基本的な考え方について学び、次の「高次脳機能障害のケア」にその知識を活用することを目標とする。</p> <p><到達目標> 1. 高次脳機能障害者を取り巻く社会的状況について説明できる。 2. 高次脳機能障害者看護のための基本的概念について説明できる。 3. 高次脳機能障害者看護の機能と役割が説明できる。 4. 高次脳機能障害に関わる疾患と治療について説明できる。 5. 高次脳機能障害者のリハビリテーション、栄養、嚥下・咀嚼、口腔ケアの技術を実践できる。</p>
高次脳機能障害のケア	<p><授業の目的> 「高次脳機能障害論」で学んだ知識を活かし、急性期、回復期、慢性期各期において、対象者の身体的、精神的、社会的背景を理解した上での適切な看護判断、看護ケアについて理解を深める。</p> <p><到達目標> ・高次脳機能障害者の急性期、回復期、慢性期各期の特徴に合わせた看護援助の在り方を説明することができる。 ・高次脳機能障害者の在宅生活を支えるための指導や他職種・他機関との調整や家族の支援について説明することができる。</p>

公衆衛生学（衛生学及び 予防医学含む）	<p><授業の目的> 公衆衛生学の概念や歴史など基本的内容を学ぶ。</p> <p><到達目標> 公衆衛生学の概念や歴史など基本的内容を理解し、生活者の健康増進に対応した法制度、および公衆衛生活動の進め方を理解することができる。</p>
看護と福祉	<p><授業の目的> 社会福祉の基本的な理念や概念、制度について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の基本的な理念や概念、制度の概要を説明することができるようになる。 ・社会福祉の理念や社会保障・社会福祉制度の基本的な知識を踏まえ、患者が抱える生活上の困難を考察することができるようになる。
看護と政策	<p><授業の目的> 超高齢・少子化社会、技術革新、疾病構造の変化や治療技術の進歩などにより複雑で多様な健康課題が、社会のあらゆる場で、あらゆる年代の人々に起こっている。この科目では、看護がそれらの健康課題にどのように対応していくべきか、看護の責務と役割は何かについて、保健医療福祉政策という切り口から考えてみる。看護と政策との関連を理解し、看護のあるべき姿、さらに今後の看護の展望について広い視野で学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の様々な健康課題に対して看護ができることは何かを考えることができる。 ・医療福祉政策が看護に及ぼす影響について説明することができる。
医療と経済	<p><授業の目的> 超少子高齢化の進展、人口構造の変化に対応するために、地域において医療と介護を総合的に確保するよう改革が進んでいる。2025年及びその先を見据えて、我が国の社会保障制度、特に医療制度の現状と改革の内容を理解し、医療における経済的視点を養う。</p> <p><到達目標> 社会保障制度（特に医療制度改革）の内容および医療における経済的視点について説明することができる。</p>
医療と安全	<p><授業の目的> 我が国の医療安全対策をふまえて、組織の安全文化の醸成に参画するための知識と態度を養う。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に用いられる基本的な用語を理解し、事故発生のメカニズムと発生防止の考え方に ついて説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> ①ハインリッヒの法則、スイスチーズモデルが説明できる。 ②KYT（危機予知訓練）の考え方をを用いて看護ケアの場面に潜む危機に気づくことができる。 2. 我が国の医療安全の歴史と医療安全推進のための政策について説明できる。 3. 事故発生時の初期対応について説明できる。

■専門分野 I

科目名	授業の目的・到達目標
看護学概論	<p><授業の目的> 看護専門職者として人々の健康生活の向上に貢献できるように、看護専門分野を学ぶにあたっての入門と位置づけ、看護の本質・専門性、役割機能について歴史の変遷を踏まえながら理解し、学問としての看護学のあり方について学生自身が考え、自らの看護観を構築する基盤を養う。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の定義、目的、対象、場、機能について説明することができる。 2. 社会の変遷と看護の発展の歴史について説明することができる。 3. 看護に関わる基本的法律や看護の提供システムに関する基礎知識を説明することができる。 4. 看護倫理の基本的な考え方を説明することができる。 5. 看護理論を構成する主要概念および主要な看護理論の概略を説明することができる。 6. 国際看護について基本的な知識を説明することができる。 7. 看護専門職としてのあり方を考察し、自分自身の看護観をまとめて表現することができる。
看護学概論	<p><授業の目的> 看護専門職者として人々の健康生活の向上に貢献できるように、看護の本質・専門性、役割機能について歴史の変遷を踏まえながら理解し、学問としての看護学のあり方について学生自身が考え、自らの看護観を構築する基盤を養う。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の定義、目的、対象、場、機能について説明することができる。 2. 社会の変遷と看護の発展の歴史について説明することができる。 3. 看護に関わる基本的法律や看護の提供システムに関する基礎知識を説明することができる。 4. 看護倫理の基本的な考え方を説明することができる。 5. 看護理論を構成する主要概念および主要な看護理論の概略を説明することができる。 6. 国際看護について基本的な知識を説明することができる。 7. 看護専門職としてのあり方を考察し、自分自身の看護観をまとめて表現することができる。
ファーストステップ演習	<p><授業の目的> 看護の価値を見出すことで、生涯学び続ける力の基礎とするために以下の目的を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関や施設ですぐ看護の対象者とその生活の場を知る。 2. 看護の対象者との関わりについて考える。 3. 看護学生に必要なマナーに対する意識を高める。 <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の4・5・6・7・9・10の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療機関や施設見学を通して、看護の対象者を知る。 ②看護の対象者の生活の場を知り、自宅での生活環境との違いを説明できる。 ③対象者の反応を確かめながらコミュニケーションのとり方が理解できる。 ④対象者との関わりについて振り返り表現できる。 ⑤対象者との適切なかわりについて説明できる。 ⑥看護学生にふさわしい身嗜み、挨拶、言葉遣いが実践できる。 ⑦看護学生にふさわしい身嗜み、挨拶、言葉遣いがなぜ必要か説明できる。
看護過程論	<p><授業の目的> 看護実践を行う上で必要とされる問題解決技法を論理的枠組みを活用して思考するプロセスを理解することができる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の展開を行う意義や必要性を述べることができる。 2. 看護過程の展開を行う上での問題解決思考のプロセスを説明することができる。

基礎看護援助方法論Ⅰ	<p><授業の目的> 人間の基本的ニードである環境、活動と休息、衣生活、食生活、排泄、清潔、安全に影響を及ぼす要因を理解し、日常生活援助を必要とする対象にとっての基本的な看護技術を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に必要な看護の方法について説明することができる。 2. 人間の生命維持および基本的ニードをみたすための看護技術の原理・原則を理解し実施することができる。 3. 人間の生命維持および基本的ニードをみたすための援助を行う際に対象やその周囲に必要な態度・配慮について考えることができる。
基礎看護援助方法論Ⅱ	<p><授業の目的> 治療や検査を受ける対象に、注射、採血、吸引など身体的侵襲を与える看護技術について安全・安楽に実施するための知識・技術について根拠を踏まえて理解することができる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療および検査過程における看護師の役割について説明することができる。 2. 診療および検査過程に必要な看護技術を安全かつ安楽に実施することができる。 3. 診療および検査の援助時に必要とされる態度を考えることができる。
看護と倫理	<p><授業の目的> 看護専門職としての倫理観をもち、対象を尊重した看護を実践する能力を獲得するために、以下の目的を設定する。 保健医療福祉現場で、看護専門職が直面する倫理的課題を検討するための基本となる看護の倫理原則を理解し、看護倫理場面において看護専門職として行動できるための基本的姿勢と態度を身につけることができる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の4・7・8・9・10の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理とは何かを説明できる。 2. 看護職の基本的責務を説明できる。 3. 看護倫理に関係する概念とその意味について説明できる。 4. 倫理的課題について検討し、倫理問題が生じていることに気づき、なぜそれが倫理的問題かを説明でき、対応方法を検討できる。
フィジカルアセスメント	<p><授業の目的> 対象の健康状態を総合的に判断するためのフィジカルアセスメントの知識と技術を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践におけるフィジカルアセスメントの意義や重要性を述べることができる。 2. フィジカルアセスメントの目的と根拠を理解した上で、系統的な観察技法が習得できる。 3. 観察した内容の記述ができ、正常や正常からの逸脱の判断ができる。
家族看護学	<p><授業の目的> 看護の対象としての家族を理解するための諸理論や看護援助について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族機能の変遷やわが国の現代家族の特徴から、現代家族が直面している課題について理解できる。 2. 一つのシステムとしての家族を、家族内の関係性や家族と社会との関係性の視点から捉えることができる。 3. 健康障害をもつ家族員を内包している家族全体を看護の対象として捉え、援助を行う必要性和援助のあり方について理解できる。 4. 家族をアセスメントするための視点や理論的枠組みについて理解できる。

基礎看護実習	<p><授業の目的></p> <ol style="list-style-type: none">1. 患者および患者を取り巻く人々との関わりを通して対象の療養環境を理解し、人間関係を成立させる能力や態度を養う。2. 受け持ち患者のニーズを充たすための援助を通して、看護を展開する基礎的能力と実践力を養う。 <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none">1. 対象者を取り巻く人々との関わりを通して、人間関係を成立させるためのコミュニケーションを図ることができる。2. 受け持ち患者の情報収集を観察やコミュニケーションを通して意図的に行い行い、身体状態を理解することができる。3. 受け持ち患者の基本的ニーズを充たすために必要な援助を根拠とともに説明することができる。4. 受け持ち患者の基本的ニーズを充たすための基本的看護技術を実施することができる。5. 病院における各部署の機能・役割や患者の療養生活環境について説明することができる。6. 看護学生として責任ある行動をとることができる。
--------	--

■専門分野Ⅱ

科目名	授業の目的・到達目標
急性期看護学概論	<p><授業の目的> 健康状態が急激に変化している対象を理解するための基礎となる考え方や理論について学ぶ。急性期にある対象への看護援助の考え方を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康状態が急激に変化している対象の身体的特徴を説明できる。 ②健康状態が急激に変化している対象の心理的特徴を説明できる。 ③急性期患者や家族に対する看護援助の考え方を説明できる。 ④急性期患者への継続看護の必要性を説明できる。
急性期看護援助論	<p><授業の目的> 急性期にある対象の健康問題を身体面・精神面・社会面から総合的に判断し、必要な看護援助を提供するための基本的知識を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> ①急性期にある対象の病態と治療が対象の生活に及ぼす影響について理解できる。 ②急性期にある対象を身体面・精神面・社会面から総合的にとらえ、健康問題を導き出すことができる。 ③急性期にある対象の健康問題を解決するために、適切な看護援助を判断できる。
回復期看護論	<p><授業の目的> 生命や身体機能を脅かされた状態から脱し、回復期にある対象を援助するための基礎となる。考え方や援助方法を学ぶことにより、回復期看護の特徴を理解することができる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回復期にある対象者の身体的・精神的・社会的特徴を説明することができる。 2. 回復期にある対象者がもつ機能を最大限に活用するための看護援助やリハビリテーション、障害に対するわが国の支援体制について説明することができる。
慢性期看護学概論	<p><授業の目的> ライフサイクルにおける成人期の人々の発達にともなう身体的・社会的特徴をおさえ、慢性疾患の特徴や社会背景を学習して、慢性の病いとともに生きる成人期の人々を理解するために必要な看護の考え方を身に付ける。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期看護の対象・目的・方法の特性について説明できる。 2. 成人期の人々について青年期・壮年期・向老期に分け、その特徴について説明できる。 3. 慢性期の人々が社会の中で生活を営む上で起こりうる健康問題について説明できる。 4. 慢性期医療・福祉政策の動向を理解し、慢性期看護の役割、課題について説明できる。 5. 理論や概念に基づいて、慢性の病いとともに生きる対象者の特徴を説明できる。
慢性期看護援助論Ⅰ	<p><授業の目的> 主要な慢性疾患の病態・治療の特徴、性質が人々の身体、心理、生活に及ぼす影響を多面的・包括的に理解するとともに、慢性の病いとともに人々がよりよく生きることを支援するために有用な理論や概念を用いて、基本的な慢性期看護援助を実施する力を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患の病態や治療の特徴、性質が人々の身体・心理、生活に及ぶ影響を説明できる。 2. 慢性の病いとともによりよく生きることを支援するための援助のあり方、方法について説明できる。 3. 理論に基づいて、慢性疾患患者への看護援助の方法について、理論を用いて説明できる。

慢性期看護援助論Ⅱ	<p><授業の目的> 「慢性期看護援助論Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、慢性の病いとともに生きる人々への看護援助について、模擬患者事例の看護過程の展開を通して、具体的な看護援助の方法を検討する力を培う。また、慢性の病いとともに生きる人々の療養生活を支える多職種連携・協働のあり方・方法について理解を深める。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例に基づいて、慢性の病いとともに生きる人々を理解し、援助するために必要な情報を説明できる。 2. 事例に基づいて、必要な情報をアセスメントし、慢性の病いとともに生きる人々の看護上の問題を挙げることができる。 3. 事例に基づいて、慢性の病いとともに生きる人々が必要としている看護計画を立案し、具体的な援助方法を提案できる。 4. 立案した看護計画と具体策の評価方法を説明できる 5. 慢性の病いとともに生きる人々の療養生活を支えるチーム医療と多職種連携において、看護師が果たす役割と課題について説明できる。
終末期看護論	<p><授業の目的> 終末期にある対象者の身体的・精神的・社会的状況について学習し、全人的苦痛に対する看護援助や家族への看護について理解することができる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある対象者の身体的・精神的・社会的特徴を説明することができる。 2. 終末期にある対象者に対する緩和ケア、臨死期のケアについて説明することができる 3. 終末期にある対象者の家族に対する支援方法について説明することができる。 4. 終末期看護における倫理的課題について説明することができる。
老年看護学概論	<p><授業の目的> 高齢者を生活者として捉え老年期の特徴と老年看護の基盤となる考え方を理解することができる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・3・4・5・6・9の能力を獲得することをめざす</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢変化が高齢者の生命や生活にどのような影響をもたらしているか説明できる。 2. 高齢者の生活の質の確保に必要な保健・医療・福祉制度について説明できる。 3. 老年看護の役割と特徴、基盤となる概念を説明できる。 4. 老年看護が展開される様々な場における高齢者・家族への看護について説明できる。
老年看護援助論Ⅰ	<p><授業の目的> 高齢者の強みや残存機能を活かした日常生活援助を行うための基礎的技術を、根拠に基づいて説明することができる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・2・3・5・6・7・8・9の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活機能に対する環境の及ぼす影響と環境調整の重要性が説明できる。 2. 高齢者の嚥下機能低下を考慮した食事援助方法が説明できる。 3. 高齢者への排泄援助方法と留意点の説明及び基本的な排泄援助が実施できる。 4. 高齢者へのボディメカニクスを活用した基本動作と移動の援助が実施できる。 5. 認知機能の低下した高齢者に対する日常生活援助を考察できる。
老年看護援助論Ⅱ	<p><授業の目的> 高齢者の看護援助とその展開のプロセスを「目標志向型思考」に基づいて理解し、看護実践の根拠となる知識を得て、高齢者が望む生活の実現に向けた課題解決を考察し記述できる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することによって、学習成果の1・2・3・4・5・6・9・10の能力を獲得できることをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者特有の疾患について病態生理・症状・治療・検査・看護を理解し説明できる。 2. 高齢者の事例を生活機能の視点からアセスメントし計画が立案できる。 3. 高齢者看護が目標志向型思考に基づく理由を説明できる。 4. 高齢者看護の特徴を理解し、高齢者やその家族の意向を尊重する姿勢を示すことができる。

小児看護学概論	<p><授業の目的> 根拠に基づいた小児看護を実践するために、小児看護学の理念や対象となる子どもや家族の特性について理解することができる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・5・6・9の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児が成長・発達過程にあることを理解するための基礎となる考え方や理論を学び、小児看護の対象である子どもの特徴について説明することができる。 2. 健やかであること、健康を害することが子どもや家族にとってどのような体験なのかを説明することができる。 3. 子どもの権利を擁護する小児看護の考え方を説明することができる。 4. 様々な発達段階の子どもや家族の生活、健康問題を考え、看護援助のあり方を具体的に説明することができる。 5. 健康障害をもつ子どもや家族のストレス体験を理解し、子どもや家族への看護について説明することができる。 6. 子どもとの援助関係を形成するために必要なコミュニケーションについて説明することができる。
小児保健	<p><授業の目的> 小児看護の実践に必要な子どもを取り巻く社会の動向を捉え、ライフサイクルにおける小児期の健康について理解し、現在・将来の小児看護の課題について考察することができる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・5・6・9の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが置かれている様々な環境を学び、子どもの成長・発達、健康に及ぼす影響、子どもの安全を保証する看護について説明することができる。 2. 子どもの発達を考えるうえで、遊び・教育が重要な意味をもつことを説明することができる。 3. 母子保健の指標を分析しながら、わが国の母子保健水準について説明することができる。 4. 様々な健康レベルにある子どもと家族を支援するための社会の取り組み（法律、制度、施策）について説明することができる。
小児疾患学	<p><授業の目的> 子どもを看護するうえで必要とされる小児疾患全般の病態生理・症状・経過・検査・治療法・予後を理解し、看護判断・看護展開の基盤とすることができる。</p> <p><到達目標> 小児疾患全般の病態生理・症状・経過・検査・治療法・予後を理解し、説明することができる。</p>
小児看護援助論	<p><授業の目的> 根拠に基づいた小児看護を実践するために、小児看護技術に関する知識や方法を修得し、健康障害をもつ子どもの援助方法を理解することができる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・5・6・7・8・9の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な状況の中で療養生活している健康障害をもつ子どもや家族について、身体的・心理的・社会的側面から説明することができる。 2. 1に基づきながら、子どもと家族の権利を尊重する看護のあり方を説明することができる。 3. 様々な症状を呈する子どもの看護援助方法を説明することができる。 4. ロイ看護適応モデルを活用して、事例の看護過程の展開を記述することができる。

母性看護学概論	<p><授業の目的> 母性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目的とした母性看護を実施するために、基盤となる考え方や方向性を理解できる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基礎となる概念を説明できる。 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状、母性看護に関連する施策を説明できる。 3. 母性看護を必要とする対象の特徴を、述べるができる。 4. 母性看護に必要なおもな看護技術とその特徴、それらの関連性を述べるができる。 5. 母性のライフステージ各期の特徴とその看護について、説明することができる。 6. リプロダクティブヘルスの概念とリプロダクティブヘルスケアについて、具体的に述べるができる。 <p>以上の目標を達成することで、学習成果の1.5.9の能力を獲得することを目指す。</p>
母性学	<p><授業の目的> 女性の性機能を理解し、ライフステージにおける機能的変化による疾患と治療を学び女性の一生を通じた看護をするための基礎知識を深める。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の生殖生理について理解できる。 2. 女性のライフステージにおける特徴的な疾患について理解できる。 3. 妊娠・分娩・産褥期の正常と異常について理解できる。
母性看護援助論Ⅰ	<p><授業の目的> 母性看護に関する知識や方法を習得するために、女性の周産期に関して、正常な経過をたどる母子およびその家族の特性や、必要な基本的看護援助が理解できる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期における母子の身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。 2. 周産期における母子への必要な看護援助、技術について説明できる。 <p>以上の目標を達成することで、学習成果の1.5.6.7.8.9.10の能力を獲得することを目指す。</p>
母性看護援助論Ⅱ	<p><授業の目的> 母性看護を実施するために、妊娠・分娩・産褥期の異常を理解したうえで、ウエルネスの視点での妊産褥婦への援助方法を理解できる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にみられる異常、妊婦・産婦・褥婦及び胎児・新生児に起こる問題について説明できる。 2. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児の健康状態をアセスメントすることができ、必要な看護について説明できる。 3. 事例をとおしての具体的な看護の展開について考えることができる。 <p>以上の目標を達成することで、学習成果の1.5.9の能力を獲得することを目指す。</p>
精神看護学概論	<p><授業の目的> あらゆるライフステージにある対象の「こころ」の仕組みを理解し、「こころ」の健康を目指したケアについて考えることができる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころとは何かについて考え、説明できる。 2. こころの健康・不健康について、精神分析理論、発達理論、ストレス対処や危機理論などの視点から理解し説明することができる。
精神看護援助論Ⅰ	<p><授業の目的> 精神疾患の病態・症状・検査・治療を理解し、精神看護の展開に関連させることができる。</p> <p><到達目標></p> <p>精神疾患の病態・症状・検査・治療を理解し、説明することができる。</p> <p>精神疾患に応じた看護の展開を説明することができる。</p>
精神看護援助論Ⅱ	<p><授業の目的> こころの健康問題を持つ人々を生活者として捉え、代表的な精神障害をもつ患者と家族へのより良い看護について理解することができる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害のある患者の生きづらさを考え、説明することができる。 2. 精神障害者への看護過程を展開する知識・技術を身につけ、表現できる。 3. 学校や地域、職場におけるメンタルヘルスについて説明することができる。

急性期看護実習	<p><授業の目的></p> <p>1.急性期・周手術期にある成人患者の身体的・心理的状況や対象者の社会的背景を理解し対象者の尊厳を守りながら回復に向かうための看護を展開する能力と態度を養う。</p> <p>2.身体侵襲をきたした外来患者の病態・治療・処置・検査を理解し、外来看護援助を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <p><目的1に対する到達目標></p> <p>①急性期・周手術期にある患者の状態を理解し、経過に応じた基本的看護が提供できる。</p> <p>②急性期病棟のチーム医療及び看護師の役割を述べるができる。</p> <p>③カンファレンスを通して自己洞察を深め、表現することができる。</p> <p><目的2に対する到達目標></p> <p>①身体侵襲をきたした外来患者の治療・処置・検査及び外来看護援助を理解し、述べるができる。</p> <p>②救急医療の現状を理解し、チーム医療における看護の役割を述べるができる。</p>
慢性期看護実習	<p><授業の目的></p> <p>1. 実習を通して慢性疾患とともに生きる患者・家族を理解し、援助するための基本的な知識や技術および態度を養う。</p> <p>2. 慢性疾患とともに生きる患者と家族が療養生活を維持・継続できるよう、医療システム・チーム・多職種間の連携の必要性和看護師が果たす役割について理解できる。</p> <p>3. 看護専門職者を目指す学生としての自己の役割・責任を自覚し、自身の成長を促すよう積極的に学習に臨むことができる。</p> <p><到達目標></p> <p>1. 病棟</p> <p>1) 慢性疾患とともに生活をしている患者や家族を身体的・心理・社会的側面からとらえることができる。</p> <p>2) 受持患者の看護に必要な情報を収集・分析し、看護上の問題を判断し、計画を立案・実践・評価することができる。</p> <p>3) メンバー相互に自らの看護の振り返りや課題を探究することを通して、慢性期看護の学びを共有し、深めることができる。</p> <p>2. 外来</p> <p>1) 慢性疾患とともに生活している対象者への外来の役割と機能を理解し、継続看護の視点から外来における看護師の役割について理解を深め説明できる。</p>
老年看護実習	<p><授業の目的></p> <p>老年看護学に関する授業で学んだ考え方や援助の方法を活用して、高齢者の生活と家族に関する理解を深め、高齢者を一人の生活者として捉え、可能な限りその人らしい生活が営まれるような看護過程の展開ができる。また、看護実践を通して老年看護の役割と課題について考え、倫理的問題に気付くことができる。</p> <p><到達目標></p> <p>以下の到達目標を達成することによって、学習成果の1.2.3.4.5.6.7.8.9.10の能力を獲得することをめざす。</p> <p>1. 老年期にある対象を統合的に理解し、説明できる。</p> <p>2. 老年期にある対象とその家族の関係を把握し、説明できる。</p> <p>3. 健康上の問題を持つ高齢者を受け持ち、看護過程が展開できる。</p> <p>4. 老年期にある対象に必要な社会資源を理解できる。</p> <p>5. 高齢者の意思を尊重し、尊厳を守る態度をとることができる。</p> <p>6. グループでの実習を通して、安全管理や時間管理、リーダーシップやメンバーシップの重要性を理解し、説明することができる。</p>

小児看護実習	<p><授業の目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学で学んだ知識を活用し、身体的・心理的・社会的・成長発達の側面から統合的に子どもを理解する。 2. 健康な子どもの養護と健康上の諸問題をもつ子どもを一人の人間として尊重し、計画的に看護が展開できる実践能力を身につける。 3. 小児看護の役割と課題について考え、倫理的問題に対処できる能力を養い、自己洞察を深める。 <p><到達目標></p> <p>受け持った子ども・家族に対して以下の到達目標を達成することで、学習成果の1~7・9・10の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの身体的・心理的・社会的成長発達過程を説明することができる。 2. 子どもとのコミュニケーションを通して、子どもとの援助関係の形成過程を説明することができる。 3. 子どもの健康状態や発達段階に応じた日常生活の援助技術を実践することができる。 4. 子どもの健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を説明することができる。 5. 様々な健康レベルにある子どもと関わっている他職種の役割について学び、他職種との連携の重要性や看護の役割について説明することができる。
母性看護実習	<p><授業の目的></p> <p>妊娠・分娩・産褥各期の女性および新生児とその家族を対象に、対象の特徴を理解し、実践を通して母性看護を展開できるための基礎能力を養う。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の女性および新生児の特徴と正常な経過が説明できる。 2. 周産期の女性および新生児から得られた情報を用い、身体的変化及び心理的变化や母親への適応過程及び母子関係の形成過程をアセスメントし、必要な援助を考えることができる。 3. 周産期の女性および新生児に必要な看護援助を学び、行われた看護を評価することができる。 4. 新しい命の誕生により、家族メンバーが加わったことで再構築される家族について、役割獲得をふまえて説明できる。 5. 実習をとおして、自分の誕生、父親、母親、子育て、命の尊さについて考えることができる。 6. 母性看護の特質をふまえて、看護者の役割を説明できる。 <p>以上の目標を達成することで、学習成果の1~10の能力を獲得することを目指す。</p>
精神看護実習	<p><授業の目的></p> <ol style="list-style-type: none"> ①精神疾患を持つ人との援助関係の形成技術を学び、自己洞察を深める。 ②精神疾患を持つ人の、ひとりの人としてのありようを理解する。 ③精神疾患を持つ人へのケアの必要性を理解し、看護ケア計画を立案し、実施する。 ④精神疾患を持つ人の地域生活を支援する制度や体制を知り、地域での生活について理解する。 ⑤精神科医療における倫理的配慮について考えることができる。 <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者と、援助関係を形成することができる。 ・受け持ち患者とのかかわりを通して、プロセスレコードを活用しながら、自己洞察ができる。 ・受け持ち患者の情報から患者像を描き、患者のその人らしさを説明することができる。 ・受け持ち患者の精神状態・セルフケア・患者の置かれた環境を理解しケアを考え実施できる。 ・デイケア、訪問看護、グループホーム、ケアホームなどの機能や役割について説明できる。 ・さまざまな制度を利用している患者の生活について説明することができる。 ・精神科医療における倫理的問題に気づき、言語化できる。 ・精神疾患を持つ人の人権について考え、表現することができる。

■統合分野

科目名	授業の目的・到達目標
在宅看護学概論	<p><授業の目的> 看護の専門的知識や技能を習得し、根拠に基づいた看護を実践するために、以下の目的を設定する。 在宅療養者と家族を取り巻く社会の動向や、地域における看護活動について学び、在宅療養者と家族が住み慣れた地域で生活できるためのシステムと看護の役割・機能を理解する。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の4・8・9・10の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象である療養者と家族を取り巻く社会状況を説明できる。 2. 在宅看護の役割・機能と必要性を説明できる。 3. 在宅療養者と家族の生活を支える社会資源とその活用方法について説明できる。
在宅看護援助論	<p><授業の目的> 看護の専門的知識や技能を習得し、根拠に基づいた看護を実践能力を獲得すること、また他者との協働関係を構築し、自己を客観的に理解し、表現する能力を獲得するために以下の目的を設定する。 在宅看護の対象である療養者および家族に対する援助を実施するために必要な知識・技術を統合し、在宅における看護を展開する方法を理解する。また、演習を通して考えることで、訪問看護場面において必要な看護専門職としての姿勢や態度を身につけることができる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・4・5・6・8・9・10の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における状態別、対象別看護および医療管理を必要とする対象の援助方法について説明できる。 2. 訪問看護場面を想定した演習を通して、看護専門職に必要な態度と人間関係構築のための行動がとれる。
看護研究	<p><授業の目的> 看護における研究の意義を理解し、研究活動を通じて看護の今日的課題を解決する能力を身につける。研究過程を理解し、既存の研究論文の検索や分析能力を身につける。代表的な研究デザインに関する知識を身につける。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の5・6・7・8・9の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護研究の意義を述べることができる。 ②研究過程を説明することができる。 ③研究論文やその他の文献の検索や分析の方法を説明することができる。 ④代表的な研究デザインについて列挙することができる。 ⑤データ分析方法について説明することができる。
看護管理論	<p><授業の目的> 看護職に必要な看護管理の基本知識について理解する</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践におけるサービス管理について理解することができる。 ・看護実践のためのマネジメントについて理解することができる。 ・看護をとりまく法律・制度を理解することができる。 ・グループワークにおいて看護管理に関する発言ができる
災害看護学	<p><授業の目的> この講義では、阪神淡路大震災・東日本大震災を事例に取り上げ、災害の実態や市民や都市にどのような影響を与えるのか、その復旧・復興の過程について学ぶ。 また、高知県は近い将来南海大地震の発生が予想される。災害時における医療従事者の活動などについて学ぶ。</p> <p><到達目標> 災害の実態や影響について説明できる。 災害時における医療従事者の活動について説明できる。</p>

看護技術評価	<p><授業の目的> 看護の対象に適切な看護技術を展開できる看護実践能力を培うために以下の目的を設定する。対象の状況に応じて、根拠に基づいた看護技術を活用できるようになる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・2・3・5・6・7・10の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な看護技術の、科学的根拠や注意点をふまえた実施方法について記述することができる。 2. 対象の状況に応じて必要な看護技術を判断し、基本に沿って実施することができる。
健康教育演習Ⅰ	<p><授業の目的> 人類の福祉と文化の進展に寄与する上で、特に子ども期の健康を支える専門的職業人育成を目的とし、学生が食・医・教育の多様な分野から「歯みがき」の指導法についての計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。</p> <p><到達目標> 子ども期の歯みがきについて、各専門性と連携しながら、子ども期の健康づくりに貢献できる実践力を身につけ、自分たちの専門性へ反映することができる。</p>
健康教育演習Ⅱ	<p><授業の目的> 人類の福祉と文化の進展に寄与する上で、特に高齢者の健康を支える専門的職業人育成を目的とし、学生は食・教育・医療の分野から高齢者の健康の指導法について計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。</p> <p><到達目標> 高齢者の健康について、各専門性と連携しながら、地域・施設における高齢者の健康で心豊かな生活を支える実践活動を通し地域貢献の意義を自分たちの専門性へ反映することができる。</p>
在宅看護実習	<p><授業の目的> 学習と体験を統合し、対象の健康レベルと生活の質の向上のために深く思考する能力を獲得するため、以下の目的を設定する。</p> <p>地域で生活する人々の生活の場で行われている在宅ケア活動の実際を知り、看護の役割・機能および多職種との協働・連携の必要性を理解する。また、在宅における看護の責任や倫理的配慮について考えることで、自己洞察を深めることができる。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・2・3・4・5・6・7・8・9・10の能力の獲得をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者と家族の生活環境を把握し、地域で療養する対象者を生活者として総合的に捉えることができる。 2. 在宅療養者と家族の生活に影響を及ぼしている健康問題を説明することができる。 3. 在宅療養者と家族の在宅生活を継続させるために必要な援助の方法を説明できる。 4. 在宅療養者の状態に応じた看護技術の必要性を説明できる。 5. 地域ケアシステムにおける多職種との協働、連携の必要性を説明できる。 6. 在宅における倫理的配慮について考え、自己の行動を振り返ることができる。
総合看護実習	<p><授業の目的> 3年間の講義、演習、実習の集大成として関心のある看護領域を選択し、対象者への看護支援のあり方について考えを深める。また、チーム医療、他職種との協働、看護倫理、看護管理の視点で看護者の役割を学ぶ。実習をとおして、自らの看護観・人間観・健康観と看護者としてのアイデンティティを育む。</p> <p><到達目標> 以下の到達目標を達成することで、学習成果の1・5・6・7・8・9・10の能力を獲得することをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な健康レベル・状況にある対象者や家族の特徴を総合的に理解し、説明することができる。 2. チーム医療の中での看護者の役割を説明することができる。 3. 対象者への看護を継続するために必要なシステムを説明することができる。 4. 関係機関との連携における看護者の役割を説明することができる。 5. 各専門領域で特に必要な倫理的視点を培い、対象者の権利を擁護するために必要な倫理的行動について説明することができる。 6. 三年間の学びを統合し、看護観を述べることができる。

■教職専門科目

科目名	授業の目的・到達目標
養護概説	<p><授業の目的> 養護教諭の専門性及び専門領域における職務内容について理解でき、それに基づいて児童生徒の現代的な健康課題の解決を支援するための養護活動の展開の基礎となる知識や技法の基本を身につけるために行う。</p> <p><到達目標> 1. 養護教諭の専門領域における職務内容について、養護教諭の歴史や求められている役割について理解したうえで、説明することができる。 2. 保健室の学校保健活動のセンターとしての役割と機能について理解し、具体的に述べるができる。 3. 生徒の健康実態を把握し、問題の解決を支援するための方法について考えることができる。</p>
教育心理学	<p><授業の目的> 教育心理学の理論と実践の関連を理解することによって、人命を預かる責任感と倫理観を備え、教育に関する多様な問題に対処できる基礎知識・態度を身につけることを目的とする。</p> <p><到達目標> 人命を尊重し、世界や地域の動向を理解して対応するため、倫理的な観点から教育心理学に関する基礎理論や研究方法を活用して、幅広い分野にわたる心的特性の関連を説明することができる。</p>
教育課程総論	<p><授業の目的> 教職の意義を知るために、教育課程の編成及び実施、新しい動き等を理解する。</p> <p><到達目標> ・教育課程とは何か、教育課程の編成及びその実施、教育課程の新しい動き等について説明することができる。 ・学校教育における養護教諭の位置付けや意義について考えることができる。</p>
教職及び教育の制度・経営論	<p><授業の目的> 学校教育の成否は、児童・生徒の教育に直接携わる教員の資質に追うところが極めて大きい。そこで、教職の制度的側面についての基礎知識の習得とともに、教職の意義や教員の役割について理解を深め、教職への意欲を高める。</p> <p><到達目標> (1) 教育行政の仕組みや教育関係法規について理解することができる。 (2) 教員として求められる資質・能力について理解することができる。 (3) 今日の学校教育の課題について理解し考察することができる。</p>
教育原理	<p><授業の目的> 教育とは何か、教育の意義と目的、子ども観と教育、学校教育とその歴史や制度など、教育の基礎的概念と理論について学ぶ。</p> <p><到達目標> ・教育についての基礎的概念や思想、学校の制度的枠組みなどを説明できる。 ・現代の教育問題について主体的に考え、よりよい教育のあり方を探究することができる。</p>
教育の方法及び技術	<p><授業の目的> 養護教諭に必要な情報機器の操作・活用方法を身につける。さらに、養護教諭に必要な知識・考え方についてコンピュータを用いて教材化することを通して、教育の方法、及び、技術について学ぶ。また、ネット社会と教育について、児童・生徒を指導できるようになる。</p> <p><到達目標> ワープロ資料・プレゼンテーション資料の作成ができる。健康調査等の統計データの集計分析ができる。養護教諭に必要な知識・考え方についてコンピュータを用いて教材化することができる。ネット社会と教育について、児童・生徒の教育用の教材を作成できる。</p>

教育相談	<p><授業の目的> 今、学校現場は、いじめ、不登校などといった多くの深刻な問題に直面している。また、対人スキルが低い子どもたちが増えているといわれ、学校現場では予防的・開発的支援の必要性も指摘されている。このような観点から、学校教育相談の実際、学校教育相談に必要な基礎となる理論と技法、特別な支援を必要とする子どもたちへの対応、自己表現やソーシャルスキルの教育について、臨床教育学的な視点を踏まえ学びを深めるために行なう。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達上の問題点や人との関わりの問題について理解を深めることができる。 2. 教育相談の理論背景や歴史的経緯、扱う問題領域、技法について理解することができる。 3. 発達上の問題に対する学校保健活動や教育相談活動の在り方を教育との関連から理解することができる。 4. 養護教諭の職務の特質を生かした学校教育相談活動のあり方について考えることができる。
道徳教育の指導法	<p><授業の目的> 道徳教育の原理や方法を理解し、道徳教育の実践的指導力を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の本質や道徳教育の基本的な在り方を理解する。 2. 道徳教育と食育及び健康教育との関連を考察できる。
特別活動の指導法	<p><授業の目的> 学習指導要領に基づいて、特別活動の果たす役割や意義を学び、総合的な学習の時間の意義を学び、それぞれの目標及び内容を理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 特別活動及び総合的な学習の時間の目標、教育的意義を説明することができる。 2) 特別活動及び総合的な学習の時間の各活動・学校行事の目標と内容、指導計画を理解することができる。 3) 特別活動及び総合的な学習の時間における指導ができる。
生徒指導の理論と方法	<p><授業の目的> 生徒指導上の諸課題や指導の実際を理解し、生徒指導のあるべき姿について、理論と実際の面を踏まえて、実践できるようになる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の特性や意義及び機能を理解し、説明することができる。 2 生徒指導上の諸課題の背景や現状と生徒指導の実際を理解したうえで、望ましい対応の在り方を習得することができる。
学校保健	<p><授業の目的> 学校保健における保健管理、保健教育、組織活動、学校安全の実際とその方法について学び、学校保健の領域についての理解を深めることができる。また、今日的児童生徒の健康課題をとりあげ、学校内外や地域と連携した支援の方法について学ぶことにより、専門職としての根拠に基づいた養護活動に必要な知識と技術を習得し、行動することができるようになる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健の意義と特質について理解し、法的根拠から説明できる。 2. 学校保健の領域構造について理解し、保健管理、保健教育、学校保健組織活動の実際とその方法について具体的に説明できる。 3. 児童生徒の今日的な健康課題に対して、養護教諭の専門性と保健室の機能を生かした支援について計画を立案し、その方法について考えることができる。
養護実習事前事後指導	<p><授業の目的> 本授業では3年次の「養護実習Ⅰ」にあたっての事前事後指導をおこなう。実習前の事前指導では、養護教諭に必要な知識や技術の再学習を行うとともに、指導案や教材の作成、模擬授業などをおこなうことにより、養護実習への円滑な導入と、より高い実習成果を得るための準備態勢をつくる。事後指導では、養護実習を終えた後、評価、反省、課題などをレポートし、それに基づいて討論することにより知識の共有化を図るために行う。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導では、養護実習の目的、意義、内容、方法について理解し、養護実習に向けて必要な基本的な知識や技術を身につけ意欲的に養護実習に参加することができる。 2. 事後指導では、教育現場で体験した事柄の内容、意味を整理し、学習の成果と課題を確認し、さらに習得することが必要な知識や技術等について明らかにし、その内容について具体的に述べるることができる。

<p>教職実践演習 (養護教諭)</p>	<p><授業の目的> 本授業の目的は、3年間、教職課程で学んできた養護に関する専門科目及び教職に関する専門科目の知見を結集するとともに、教育実習で得た学校現場の視点を取り入れながら、その内容を整理統合することである。授業では、教育実習の振り返りや、現在までの「履修カルテ」を基に、養護教諭になるために不足していると見られる知識・技術などの課題の克服を意識しながら学習をすすめていくことにより教員としての質を確保するために行う。</p> <p><到達目標> 1. 子どもや学校の置かれている最新の状況について理解し、具体的に述べるができる。 2. 児童生徒の特質と心身の状況・発達過程についての理解、基本的な養護活動などについての理解と技能を活用して、実践することができる。</p>
<p>養護実習</p>	<p><授業の目的> 学校教育の場において、児童生徒の理解を深め、教員としての子ども観や教育観、さらに教師観を養うことができる。また、学校保健上の問題解決に向けて養護教諭の専門性を生かした学校保健活動の展開について理解し、その過程で用いられる技術を習得するために行う。</p> <p><到達目標> 1. 学校保健活動を推進する仕組みや、保健室の機能及び養護教諭の職務と役割について理解し、説明することができる。 2. 成長・発達過程にある児童生徒の健康問題の把握とそれらの解決を支援するための方法を考えることができる。 3. 集団、個人を対象とした健康教育の指導計画を立案し、実践することができる。 4. 教育専門職者としての倫理観をもち、対象を尊重した教育活動の実践ができる。</p>